

真言宗高野山金剛峯寺の姿勢～真言の太っ腹を取り上げる。以下はもちろん、真言宗総本山の金剛峯寺管理下にある。

1. 壇上加藍／（図-16）

真言密教仏教施設の中枢部――二大聖地の一つ壇上加藍域に神道神社が堂々と並立している！

図-17a は奥にある御社――弘法大師が高野山を開いた際に守り神として丹生明神・高野明神を勧請した社――、図-17b はその手前にある山王院（御社の拝殿）がある。この神社は金堂からわずか70m の所で、仏教施設と仕切る垣根などは何もない。



図-16



図-17a



図-17b

2. 奥の院／（図-18～図-19）

二つ目の聖地、弘法大師空海が眠る御廟は当然仏教施設で、神が守護している。

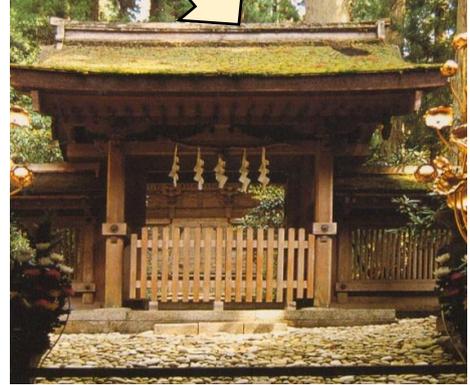


図-18

明らかに「しめ縄と紙垂(しで)、それに切り紙 (オカザリ) の宝来 (縁起物)<sup>ほうらい</sup>」と思われ、神道の香りがする。ご承知のとおり、しめ縄と紙垂、オカザリは、俗界と神界の境界・結界を目に見える形にしたものである。弘法大師を神様が見守り、仏道の僧侶が日々のお世話をしているのである。なんとも素晴らしいことか。次頁図-10④は御廟本殿 (本堂) 内部で、正面透けている処の先には、外部に⑧御廟本体がある。いずれも、本来は撮影禁であるが・・・(こっそり撮影でごめんなさい)。



Ⓑ



Ⓐ

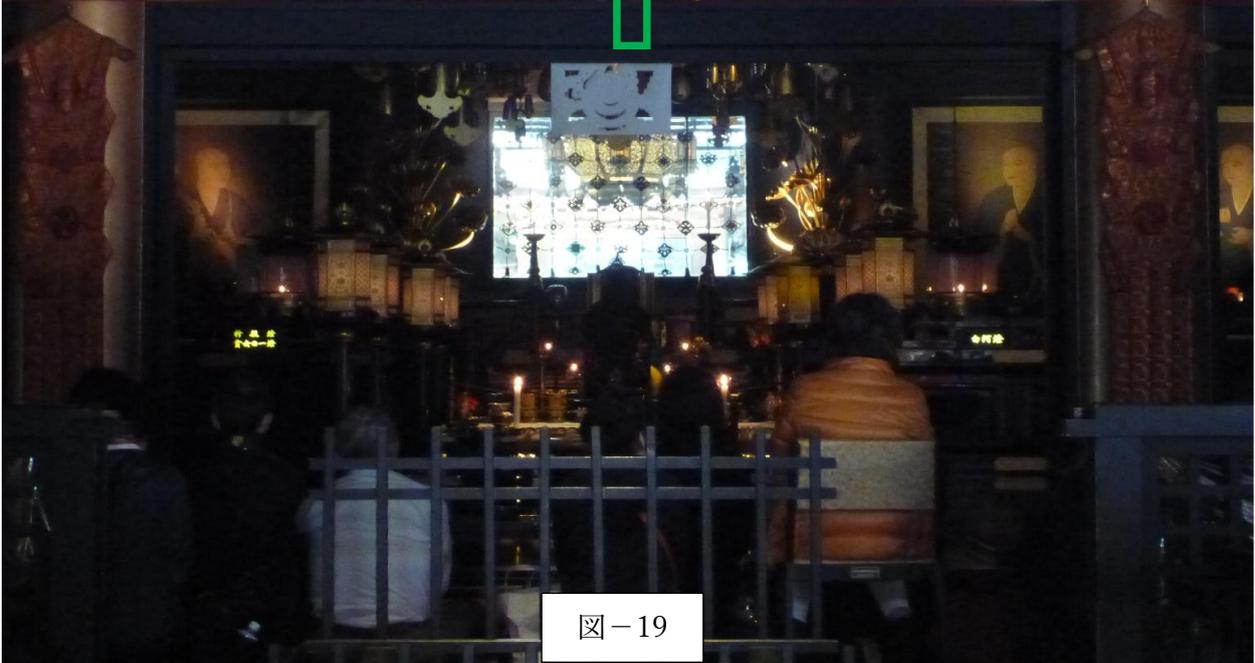


図-19

(end)